

国立大学イノベーション
創出環境強化事業
(令和3年度採択)
フォローアップ調書

法人名：国立大学法人浜松医科大学
令和5年7月

目次：

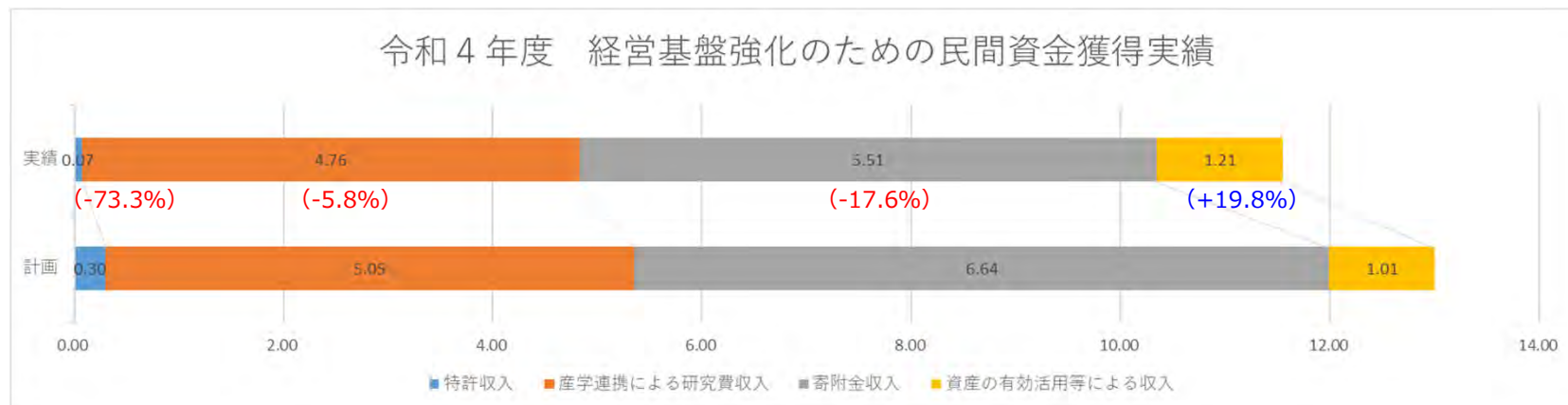
1. 民間資金獲得状況
2. 取組の進捗状況
3. 交付金の活用状況
4. 大学収入の状況
5. その他

1. 民間資金獲得状況

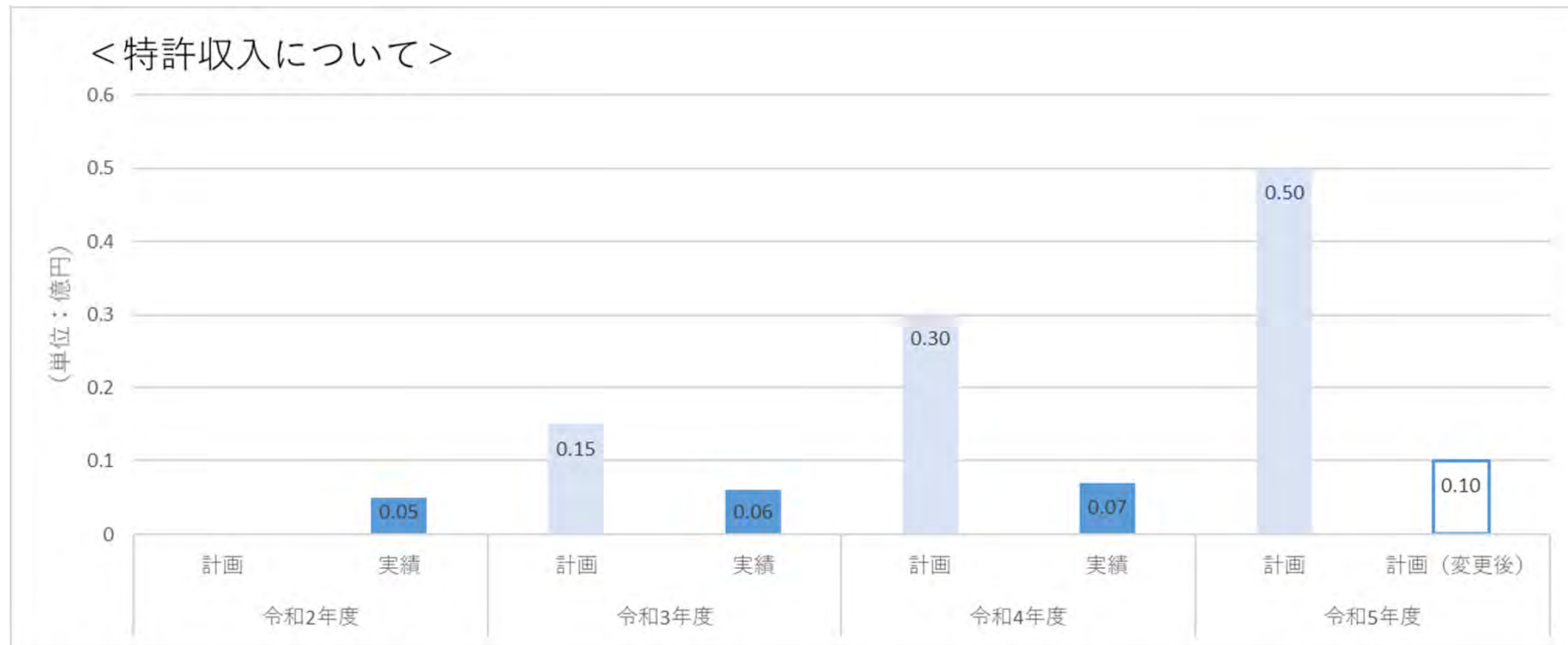
< 令和4年度の計画と実績 >

費目	計画 (単位：億円)	実績 (単位：億円)	備考
特許収入※	0.30	0.07	令和3年度実績0.06億円
産学連携による研究費収入※	5.05	4.76	令和3年度実績4.26億円
寄附金収入※	6.64	5.51	令和3年度実績5.00億円
資産の有効活用等による収入	< 0.82 > 1.01	1.21	令和3年度実績1.01億円
民間資金獲得額（全体）	13.00	11.55	令和3年度実績10.33億円

「産学連携による研究費収入」 について	計画 (単位：億円)	実績 (単位：億円)	備考
総額	5.05	4.76	令和3年度実績4.26億円
直接経費	3.94	3.60	令和3年度実績3.33億円
間接経費	1.11	1.16	令和3年度実績0.93億円



1. 民間資金獲得状況



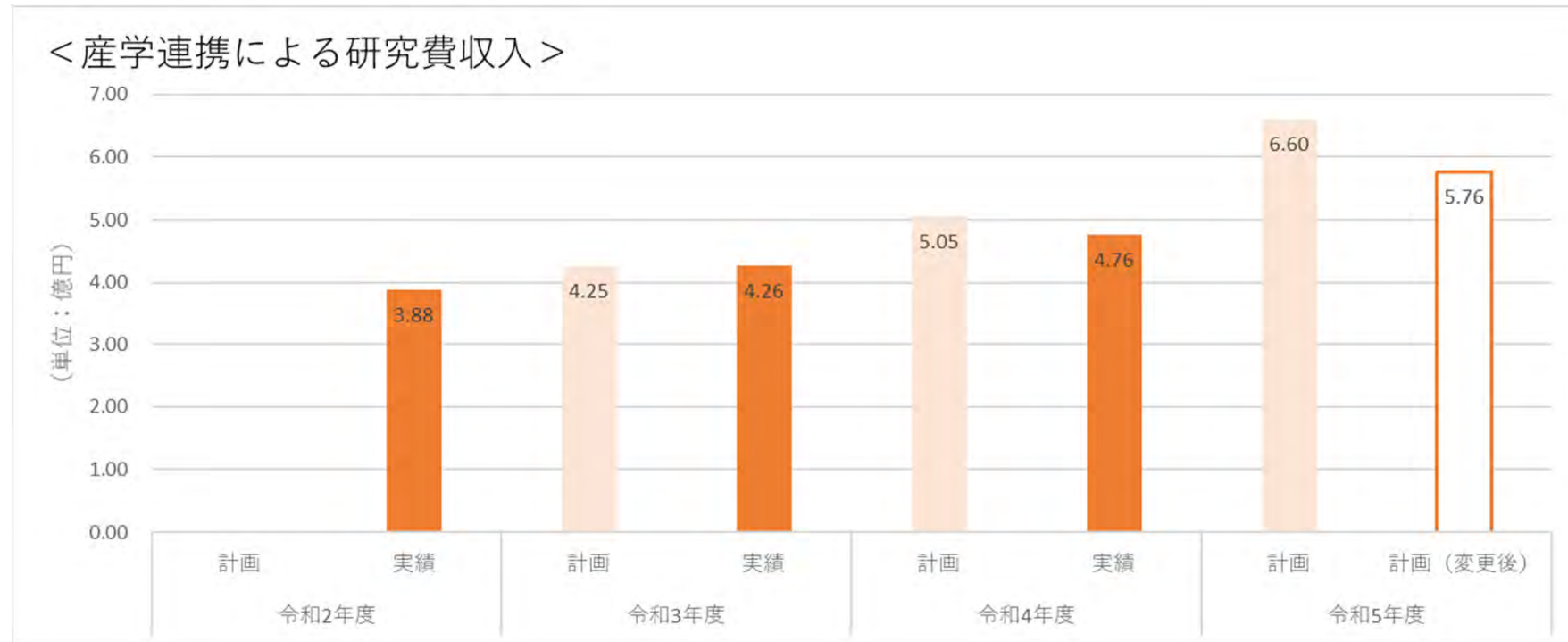
(R4実績及び状況の分析)

令和4年度の特許収入の実績は計画を下回ったが、前年度より0.01億円増額した。主な要因として、企業におけるコロナ禍からの経営状況の回復が想定よりも遅れたことにより、企業との交渉が難航し、強い特許の卵になる研究に結び付けることが出来なかったためである。

(R5以降の計画)

上記を踏まえ、令和5年度計画を0.50億円から0.10億円に修正する。アフターコロナの令和5年度においては、特許等の出願数を増やすため、学内の研究シーズ・医療ニーズの発掘を継続して強化するとともに、技術移転活動、海外展開をより推進する計画である。

1. 民間資金獲得状況



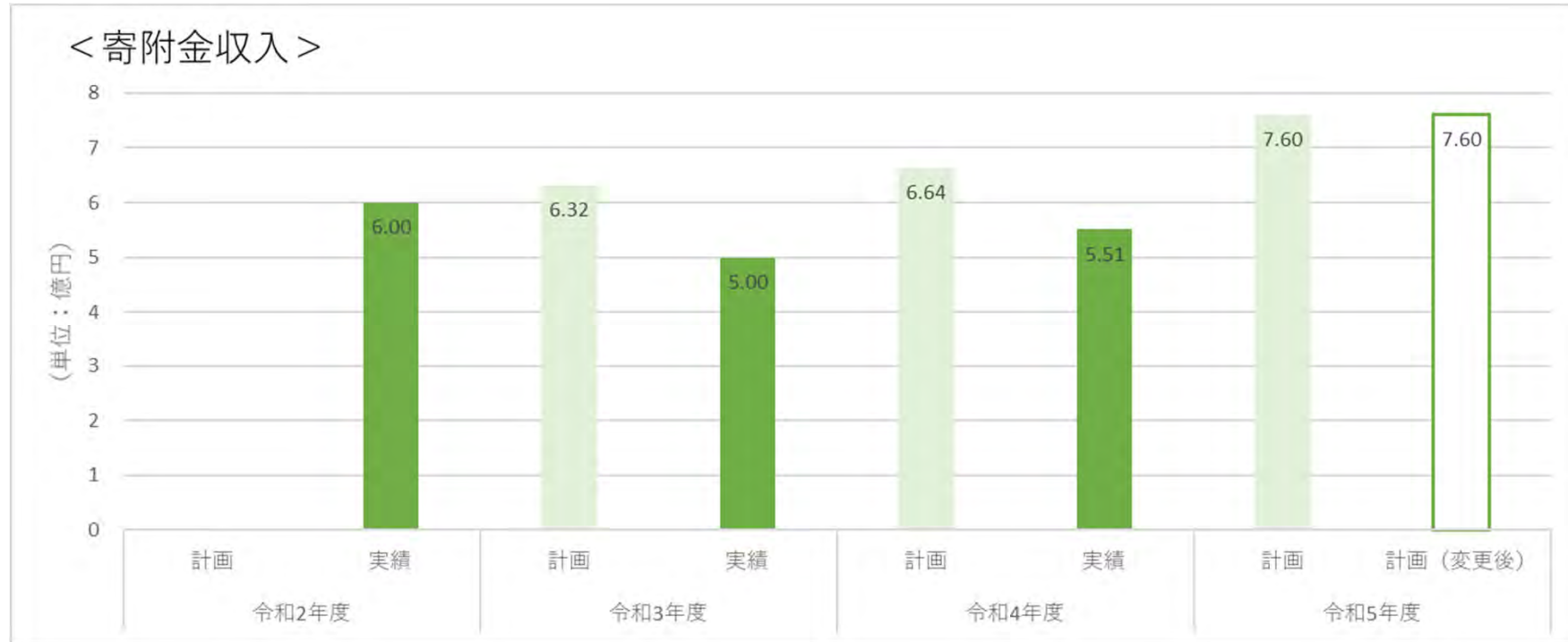
(R4実績及び状況の分析)

令和4年度の産学連携による研究費収入の実績は計画から0.29億円を下回る結果となったが、前年度より0.50億円増額した。受託研究費（治験）が出来高制からマイルストーン制に移行した過渡期であったため、想定よりも収入が伸びなかったことが要因として挙げられる(R3：1.73億円→R4：2.15億円)。なお、共同研究費は昨年度から増額した(R3：0.68億円→R4：0.89億円)。

(R5以降の計画)

コロナ禍による影響が計画立案時の想定よりも大きかったこと、受託研究費（治験）の令和4年度収入が想定よりも伸びなかったことを踏まえ、令和5年度計画を令和4年度実績の1億円増の5.76億円に再設定する。

1. 民間資金獲得状況



(R4実績及び状況の分析)
 令和4年度の寄附金収入の実績は計画から1.13億円を下回る結果となったが、前年度より0.51億円増額した。主な要因としては、コロナ禍の影響による企業からの寄附金額の縮小、本学から企業への訪問による募金活動の停止等の寄附機会の損失が考えられる。ただし、大学基金については、開学50周年記念事業のパンフレットや記念品を学内外へ配布する等、積極的な活動が実を結び、件数及び金額ともに大幅に増加している（【件数】R3：273件→R4：322件、【金額】R3：0.38億円→R4：0.95億円）。

(R5以降の計画)
 令和6年度に開学50周年が控えており、令和5年度は「開学50周年記念事業」基金による寄附金収入が見込まれるため、計画変更は行わない。

2. 取組の進捗状況

◎：計画以上に進捗している
○：計画どおりに進捗している
△：当初の計画どおり進捗していないが、目的は達成している
×：当初の計画どおり進捗せず、目的も達成していない
－：計画の修正、変更などにより評価できない
※：その他

取組	令和3年度 自己評価	令和4年度 自己評価	内容
全体	◎	◎	全体として計画以上に進捗している。
取組1-(1) 医工連携推進のための体制強化 (産学官連携マネジメントの現在の課題と 大学の産学官連携部門の外部法人化)	◎	◎	令和6年度の活動開始に向け、産学連携実施 法人におけるミッション、ビジョン、バリュー、事業 内容、事業計画、法人の形態などの骨子を完成 させた。
取組1-(2) 医工連携推進のための体制強化 (次世代創造医工情報教育センター設置)	◎	◎	医学部学生へのアントレプレナーシップ教育及び 数理・データサイエンス・AI教育(1・2年生必修)を 開始し、学生ピッチコンテスト、静岡大学共催の 医・工・情報連携の講演会等を実施した。
取組2 外部資金獲得強化のための環境整備	○	○	治験及び臨床試験の更なる効率化と信頼性向上 のため、電子カルテを活用した臨床研究システム を構築した。
取組3 寄附金獲得体制の強化	○	◎	寄附者向けのグッズや、寄附募集パンフレットを作 成して同窓会や後援会等幅広く配布し、寄附金獲 得活動を強化した。本学初のクラウドファンディ ングを実施し、目標を上回る寄附金を獲得した。
取組4 資産の有効活用等による収入の拡大	◎	◎	PPP事業によるドラッグストアの整備、職員宿舎の 整備による借料等を獲得した。また、有価証券等 の弾力的な運用を行い、運用益が増加した。

2. 取組の進捗状況

令和3年度 自己評価	令和4年度 自己評価
◎	◎

【取組1-(1)】 医工連携推進のための体制強化 (産学官連携マネジメントの現在の課題と大学の産学官連携部門の外部法人化)

令和4年度活動実績

●設置の在り方に関する有識者会議（6回実施）

- 産学官連携実施法人設置の在り方に関する有識者会議を実施し、法人のミッション・ビジョン・バリュー、事業内容、事業計画、法人の形態などについて有識者からの意見を検討し、産学官連携実施法人の骨子を完成させた。

●新しい産学連携を考えるワークショップ（2回実施）

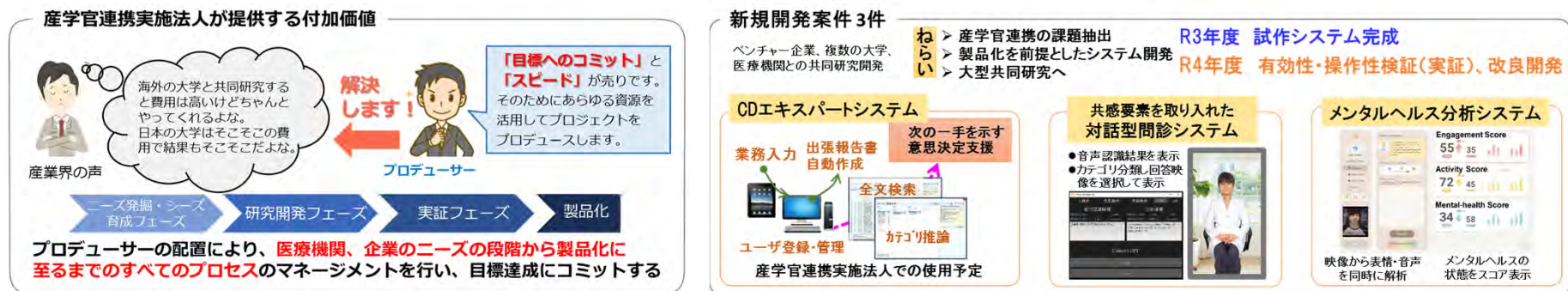
- デザイン思考に基づく、新しい産学連携を考えるワークショップを実施し、現在の産学官連携における課題、問題点などを洗い出した（1回目は大学の産学連携部門の責任者及び担当者が集まり、これまでの産学連携活動を分析。2回目は、1回目のメンバーに地域自治体の担当者に加え、グループ形式のディスカッションを実施）

●産学官連携に関するステークホルダーへのインタビュー（15件）

- 学内外の産学官連携に関するステークホルダーに対して、これまでの産学官連携の実績、成功例・失敗例、今後の産学官連携に期待するものなどについて、インタビューを実施し、産学官連携実施法人に求めるニーズを収集した（15件の内訳は、企業5社、医療機関1機関、研究者4名、コーディネーター5名）。

●製品化を前提としたシステム開発

- 令和3年度に試作したAIによるエキスパートシステムやメンタルヘルス分析システムなどを有効性等を検証し、改良した。



令和5年度以降の計画（令和6年度の活動開始に向けて）

- 産学連携有識者、ベンチャー企業社長、地方創生支援有識者、弁護士等により構成される有識者会議を継続して実施する。
- 産学官連携実施法人への出資についての文部科学省の認可を取得する。
- 新法人に係る業務内容、人員配置、事業計画・資金計画などについて最終的なとりまとめを行う。

2. 取組の進捗状況

【取組1-(2)】 医工連携推進のための体制強化 (次世代創造医工情報教育センター設置)

令和3年度 自己評価	令和4年度 自己評価
◎	◎

令和4年度活動実績

●AI・データサイエンス教育

- ・「データサイエンス」、「数理科学Ⅰ」、「看護統計学」などの授業内容を見直すとともに、静岡大学情報学部から非常勤講師を3名招き、数理・データサイエンス・AI教育を充実させた。

●アントレプレナーシップ教育

- ・医学科・看護学科1年次生を対象に、必修科目として6コマのアントレプレナーシップ教育を実施した。講師にスタートアップ企業代表や医師起業家を招き、新たな価値創造に取り組む姿勢や発想・能力の涵養を図った。
- ・センターが指導する学生団体（SAHMeT）が「第21回しずおかビジネスプランコンテスト学生部門」で最優秀賞を受賞した。

●アイデアピッチコンテストの開催

- ・学生を対象に「浜医やらまいかピッチ2022（アイデアピッチコンテスト）」を開催し、うち2件のアイデアが知的財産（実用新案）を獲得した。

●講演会等の開催

- ・数理・データサイエンス・AI教育やアントレプレナーシップ関連のセミナー、静岡大学浜松キャンパスと連携した医・工・情報連携の講演会等を計6回主催した。
- ・浜松市内の小学4年生～6年生を対象に、脳のしくみの解説と新しいアイデアの閃きと発想スキルを磨くセミナーを開催した。



令和5年度以降の計画

●AI・データサイエンス教育

- ・「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」に申請する（令和5年度予定）。

●アントレプレナーシップ教育

- ・AI・ICTを活用した災害救助システムの開発、医療・災害分野におけるロボットの活用を検討
- ・静岡大学と連携して学部生対象に『医・工・情報連携ワークショップ』を開催し、学部教育においても医・工・情報連携の更なる推進を図る。

2. 取組の進捗状況

【取組2】 外部資金獲得強化のための環境整備

取組2-(1) 共同研究環境整備について

令和3年度 自己評価	令和4年度 自己評価
○	○

令和4年度活動実績

- ・研究推進企画室の下に設置した戦略的設備計画ワーキンググループにおいて、設備・機器の利用状況、今後のニーズ等の把握、更新・新規導入に係る財源の分析を行い、戦略的設備・整備計画を整備した。
- ・また、学外から機器の空き状況などが確認できる研究設備予約システムを新規に導入した。

令和5年度以降の計画

- ・学内の共同利用機器の状況を確認し、適正な収益率を算出し、機器使用料の見直しを図る。
- ・大学連携研究設備ネットワークのオンライン予約・課金システムを参考に、令和4年度に導入した外部からの研究設備予約システムの運用を開始する。

先進機器の共用化の推進



取組2-(2) 治験について

令和4年度活動実績

- ・治験および臨床試験の更なる効率化と信頼性向上のため、電子カルテ入力データがシームレスに電子的治験報告書となる臨床研究システムを整備した。
- ・病院外での治験患者情報のシェアリングが可能となる、仮想電子カルテを利用したりリモートSDVシステム※を構築した。

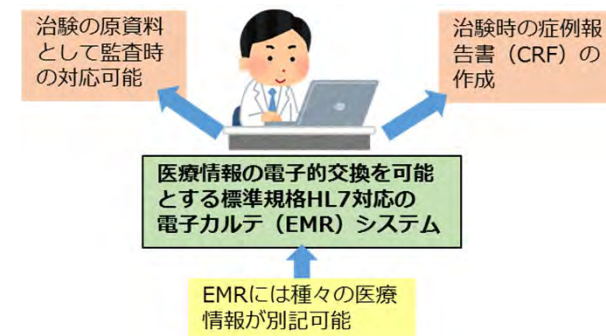
※治験依頼者がwebを介して行う資料確認の業務

令和5年度以降の計画

- ・仮想電子カルテを利用したりリモート監査導入及び地域医療機関との分散型治験（Decentralized Clinical Trial ※）の実施に向けて環境を整備する。

※患者が実施医療機関へ来院しなくても臨床試験に参加できる臨床試験手法

治験における臨床研究DXの推進



2. 取組の進捗状況

【取組3】 寄附金獲得体制の強化

令和3年度 自己評価	令和4年度 自己評価
○	◎

令和4年度活動実績

- ・ 令和3年度に設置した「開学50周年記念事業基金室」にて、新たなロゴマークや、寄附者向けのグッズ、寄附募集パンフレットを作成するなど、寄附金獲得活動を推進した。
- ・ 「誰もが癒される病院に-中庭の再整備とプロジェクションマッピングを！」と題して本学初となるクラウドファンディングを実施し、目標を上回る寄附金を獲得した。



目標金額：15,000,000円
寄附総額：18,526,720円
寄附者数：330人

令和5年度以降の計画

- ・ 令和6年度の開学50周年記念に向けて、寄附者向けのグッズ作成や、寄附募集パンフレットを作成して同窓会や後援会等幅広く配布し、寄附金獲得活動を強化する。

【取組4】 資産の有効活用等による収入の拡大

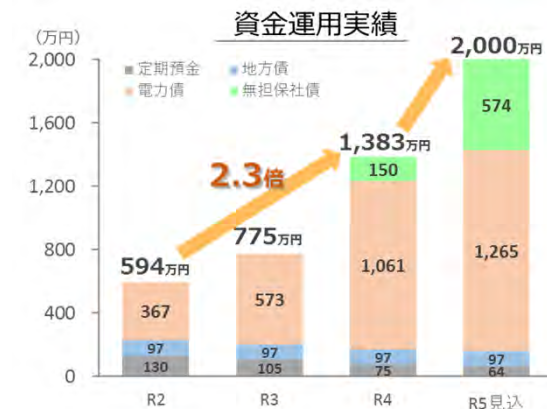
令和3年度 自己評価	令和4年度 自己評価
◎	◎

令和4年度活動実績

- ・ 業務上の余裕金の運用にかかる文部科学大臣の認定（基準第2）を取得した。
- ・ 金融機関勤務経験者等を構成員とする資金運用管理委員会を立ち上げ、収益性の高い金融商品を運用を開始した。

令和5年度以降の計画

- ・ 従前の元本保証のある資金運用（地方債等）に加えて有価証券（無担保社債）等による弾力的な運用を推進し、運用益の増額を図る。
- ・ 「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」にて整備する「ホスピタル・ラボ」及び「神経機能分子解析施設」において、プロジェクト研究室や産学官連携研究等に使用するスペースを民間企業等に貸し出し、スペースチャージ料の増収を図る。



3. 交付金の活用状況

令和3年度（交付済：2億円）

令和4年度（交付済：1億円）

目的	交付年度	用途	金額 (単位：億円)	期待される効果
取組1 医工連携推進のための体制強化	R3	産学官連携実施法人設立後に製品化して使用料収入を獲得するシステムの開発費 次世代創造医工情報教育センター室の内装工事費 等	0.68	AIによるエキスパートシステムやメンタルヘルス分析システムなど製品化を前提としたシステム開発・改良を行い、産学官連携実施法人設立後に使用料収入を得る。また、産学官連携実施法人設立によって、大型共同研究の締結につながる取組を推進し、研究費獲得の端緒とする。 次世代創造医工情報教育センターを中心に、起業家精神を持った医療人や、デザイン思考に基づく医療機器開発を行う素養を持ち、社会の課題解決に挑戦する人材を輩出するとともに、異分野横断的共同研究を推進することで外部からの恒常的な民間資金を獲得する。
	R4	産学官連携実施法人設立後に製品化して使用料収入を獲得するシステムの改良費 工学や情報学など異分野横断共同研究の研究費 等	0.56	
取組2 外部資金獲得強化のための環境整備	R3	外部資金拡大のための機器であるPET用多目的自動合成装置の購入費 治験担当職員人件費 等	1.12	学内研究施設を充実させ、外部からの共同利用促進をはかり共同研究や外部資金導入を増加させる。仮想カルテを利用した患者情報の電子的シェアリング環境の下、治験依頼者がリモートモニタリング可能な環境を構築し、治験のさらなる効率化・活性化を図り持続的に民間資金を獲得できる体制を整備する。
	R4	研究設備予約システム購入費 治験担当職員人件費 等	0.40	
取組3 寄附金獲得体制強化	R3	50周年記念グッズ作成費 等	0.03	令和6年度の開学50周年に向けて広報体制を強化し、ホームページや基金パンフレットのリニューアルを実施することにより、本学における組織的な募金活動を推進し、本学の教育研究・地域貢献に必要な資金を確保する。
	R4		0.01	
取組4 資産の有効活用等による収入の拡大	R3	職員宿舎跡地活用に係る調査費 等	0.17	職員宿舎跡地を活用し、企業へ貸し出すことにより新たな収入を確保する。 有価証券購入等による運用を拡大し、本学の財政基盤を強化する。
	R4	職員宿舎跡地活用に向けた公募準備経費	0.03	

4. 大学収入の状況

< 民間資金獲得額 >

令和4年度フォローアップ調書提出時

(単位：億円)

費目名	令和2年度 実績	令和3年度 計画	令和4年度 計画	令和5年度 計画	増加額 令和5-令和2
特許収入	0.05	0.15	0.30	0.50	0.45
産学連携による研究費収入	3.88	4.25	5.05	6.60	2.72
寄附金収入	6.00	6.32	6.64	7.60	1.60
資産の有効活用等による収入	0.64	0.73	<0.82> 1.01	1.10	0.46
民間資金獲得額（全体）	10.57	11.45	<12.81> 13.00	15.80	5.23



実績及び変更後の計画

費目名	令和2年度 実績	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 計画	増加額 令和5-令和2
特許収入	0.05	0.06	0.07	0.10	0.05
産学連携による研究費収入	3.88	4.26	4.76	5.76	1.88
寄附金収入	6.00	5.00	5.51	7.60	1.60
資産の有効活用等による収入	0.64	1.01	1.21	1.30	0.66
民間資金獲得額（全体）	10.57	10.33	11.55	14.76	4.19

4. 大学収入の状況

< 民間資金獲得額 (つづき) >

令和4年度フォローアップ調書提出時

(単位：億円)

「産学連携による研究費収入」について	令和2年度 実績	令和3年度 実績	令和4年度 計画	令和5年度 計画	増加額 令和5—令和2
総額	3.88	4.26	5.05	6.60	2.72
直接経費	3.07	3.33	3.94		
間接経費	0.81	0.93	1.11		

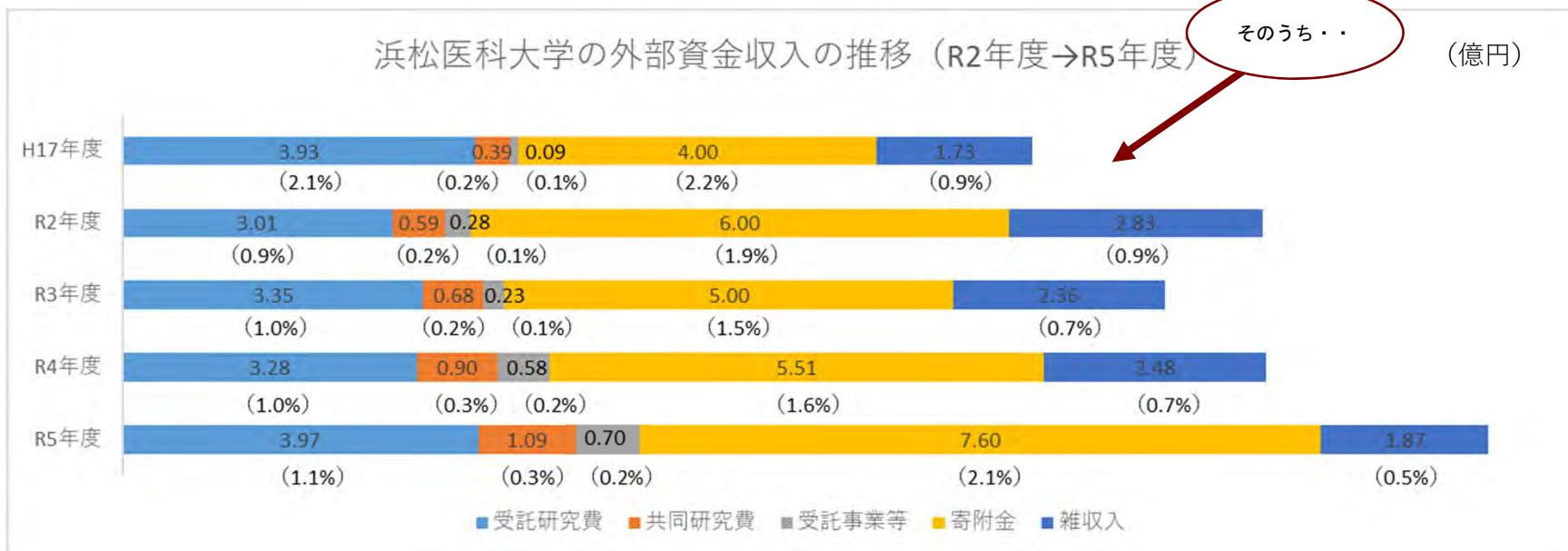
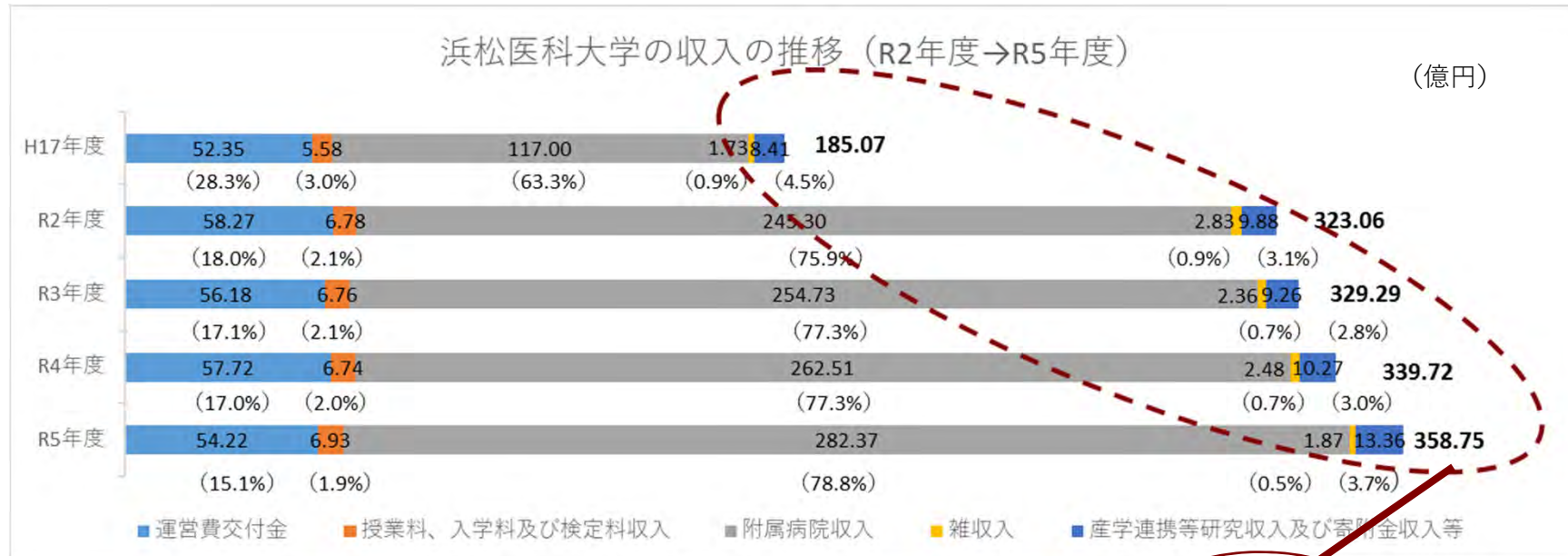


実績及び変更後の計画

「産学連携による研究費収入」について	令和2年度 実績	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 計画	増加額 令和5—令和2
総額	3.88	4.26	4.76	5.76	1.88
直接経費	3.07	3.33	3.60		
間接経費	0.81	0.93	1.16		

4. 大学収入の状況

<実績及び変更後計画に基づく大学収入の見込み>

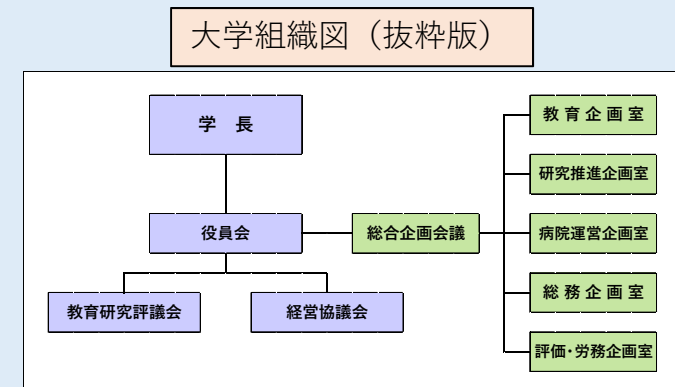


5. その他

ガバナンス強化、その他の取組

◎本事業の各取組を含め、本学の機能（教育、研究等）ごとに理事または副学長を室長とする各企画室を設置しており、それら企画室を統括する総合企画会議を毎月開催し、全学的視点での管理・推進等の体制を整えている。

なお、本事業の令和4年度予算配分に当たっては、学長、理事が各担当室長に対し、これまでの実績、進捗等の確認及び令和4年度の計画等についてのヒアリングを実施している。



◎資金の弾力的運用を可能とするために文科科学大臣の認定を受けた「基準第2」に対応して、金融機関勤務経験者を資金運用管理委員会の構成員とし、新たな資金運用を開始している。

◎職員採用において、これまでの国立大学法人試験採用等に加え、経験・知識を有する者を採用するため、独自の特任専門職員の採用を始めた。

本事業の政策的効果について

◎「ものづくり地域・浜松」の特徴を活かした産学官連携による連鎖的・継続的な新技術の事業化等に対して、地域の医療系単科大学である本学が強み・特色・専門性を生かして、イノベーションエコシステム構築の一つの柱として取組を推進していくことにより、健康・医療関連産業の基幹産業化、雇用の促進やベンチャーの創出を通じて、地域の活性化や生産性の向上に繋がっていくことが期待できる。